

「弟子たち、宣教から帰ってくる」

2015年07月28日

ルカによる福音書 10 章 17 節～20 節。七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

主イエスは 72 人の弟子たちを任命し、2 人 1 組にして「神の国」の宣教に遣わした。ルカ福音書の著者は、宣教は 12 弟子たちの働きを超え、72 人に拡大していることを伝えようとしている。弟子たちは宣教が人々に受け入れられるかどうか、緊張と不安を持って出かけただろう。ところが、弟子たちの緊張と不安は消え、大きな成果をあげた。彼らは喜び勇んで帰って来て、「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します」と報告した。主イエスは「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない」と答えられた。主イエスは弟子たちを遣わした後、祈りながら見ていたのであろうか。あらゆる敵の力に打ち勝つ権能を授けたから、あなた方の宣教によって、悪魔が稲妻のように天から落ちるのを見たと言われる。著者の表現は蛇やさそりを踏みつけ、悪魔が落下するという、邪悪なものの姿を描き、スケールの大きいロマンになっている。理性的になった現在の私たちには、このような表現はできない。古代人の心の豊かさ、広さを見る思いがする。

そして、主イエスはあなたがたに害を加えるものは何もないと、神が先導する守りの中で宣教がなされたと言われた。次いで、「しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」と付け加えられた。悪霊追放できたことを喜び、誇るのではなく、あなた方の名が、神の手にある「命の書」に書き記されていることを喜び、誇れ、それが「神の国」の宣教者に相応しいと言われた。

出エジプト後、イスラエルの民は恐怖と不安に襲われ、金の子牛の偶像を造って苦境から逃れようとした。この偶像礼拝の罪をモーセは必死に執り成している。出エジプト記 32 章 32 節に「今、もしもあなたが彼らの罪をお赦しくださるのであれば……。もし、それがかなわなければ、どうかこのわたしをあなたが書き記された書の中から消し去ってください」と、モーセは祈りを捧げている。神は手に「書」を持ち、それに、永遠の命に与る者の名を記している。民の罪をお赦しくださるのであれば、私の名を「書」から消し去っても構わないと祈っている訳である。ヨハネの黙示録 3 章 5 節には「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。わたしは、彼の名を決して命の書から消すことはなく、彼の名を父の前と天使たちの前で公に言い表す」と書いている。イスラエルの民は、神が持たれる「命の書」に名が書かれることをひたすら求めたのである。

主イエスは人間の尊厳を回復する「神の国」の宣教に携わり、働いた者の名は天に書き記されていることを喜べと言われた。キリスト教主義学校で聖書教師から「命の書」の話聞いて、この「書」に名を記される信仰者になりたいと決意したと言う人のことを思い出す。私は挫折多き牧師であったが、確実に名が記されていると信じている。